



オゾン層とは何なの

地上から約20～30キロメートルの所にある

オゾンは、空気中の酸素が、太陽の光の中にある紫外線によって、変化させられてできたものです。オゾンは、地上から約20～30キロメートルの所にあり、ここをオゾン層といっています。

紫外線は、生物にとってたいへん有害です。オゾン層は紫外線を吸収するはたらきがあるので、地表にとどく紫外線は少なくなり、生物にとって安全になります。

オゾン層がこわされる

最近ではオゾンがこわされ、南極や北極の上空などには、オゾンが非常に少ない所ができています。このような所を、オゾンホール(オゾンのあな)といっています。

オゾンホールができる原因は、フロンガスが、オゾンをこわしているからです。

フロンガスはスプレー、冷蔵庫やクーラーの冷きやく剤、電子部品を洗うときなどに使われてきましたが、今は世界各国でフロンガスをつくらない、使わない約束をしました。

(監修・国司 真)

